

平成25年9月15日  
今週のベストショット



奈多グラウンド 奈多サンデーズ 対 新町パイレーツ戦  
猛打賞の若き四番・野々下利生久選手を中心に奈多サンデーズ打線が大爆発！  
写真：レッドサンデーズ 八島久徳

**奈多グラウンド 奈多サンデーズ13安打で昨年2戦2敗のパイレーツにリベンジ！**

奈多サンデーズ（8勝1敗0分）12152 11 塚本○、江口ー荒口

新町パイレーツ（2勝4敗1分）00100 1 吉田●ー大濱

**HR**：野々下（奈多サ） **2BH**：野々下、荒口、鳥羽（奈多サ） 牟田（新町パ） **盗塁**：秋山（奈多サ）

どちらも田中監督が率いる昨年2位新町パイレーツと同3位奈多サンデーズの対決。昨年2回対戦してどちらもパイレーツが勝利していたので、サンデーズ田中監督はリベンジしたいところ。一回表サンデーズは、一番木下選手が四球で出ると、二番土田選手の送りバントと三番秋山選手のレフトフライの間に三塁まで進み、WPで1点先取。続く二回表は二死から九番江口選手が死球で出塁すると、一番～三番までの連打で2点。三回表は、エラーで出塁した塚本選手を八番野田選手のタイムリーで1点。四回表には一番木下選手がヒットで出塁すると、二番土田選手が送れず三振するも三番～五番大沼選手が連打、エラーを挟んで七番荒口選手のタイムリー二塁打で5点。最終五回表は、代打鳥羽選手がレフト前を放つと積極的に二塁を奪う好走塁。そこでこの日3安打目となる四番野々下選手の打った瞬間ライトに突き刺さるトドメの2ランが炸裂！サンデーズは計13安打で昨年の最多勝パイレーツ吉田投手を粉砕。投げてはサンデーズ塚本投手が威力あるストレートでパイレーツ打線を四回まで2安打1失点に抑え、充分に先発の役目を果たすと、江口投手が五回裏を無難に抑え、11-1のスコアで雪辱を晴らした。激しい台風のような猛威を振るうサンデーズ打線に対し、試合直後に降り出した激しい雨がパイレーツの鬱積した思いを象徴しているかのようだった。（記事、写真：レッドサンデーズ 八島久徳）



サンデーズ富田選手による恒例の試合前ノック。



試合を裁くのは主審、レッド梅野監督。



一回表、WPでホームを突くサンデーズ木下選手。



二回表、三連打の口火を切る一番木下選手。



タイムリーで繋ぐサンデーズ二番土田選手。



連続タイムリーを放つサンデーズ三番秋山選手。



三塁コーチャーズボックスでのサンデーズ田中監督。



三回表二死から八番野田選手が塚本選手を返す。



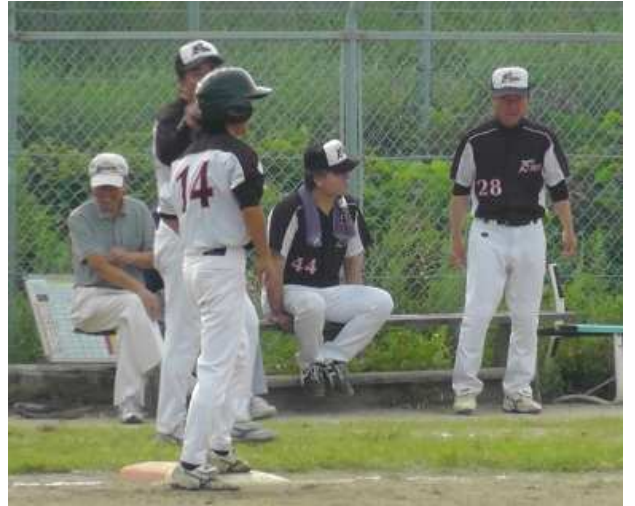
サンデーズ大沼三塁手、塚本投手、野々下一塁手。



威力のある速球をコーナーに投げ分ける塚本投手。



サンデーズ打線に立ち向かうパイレーツ吉田投手だったが・・・。



三回裏、チーム初ヒットのパイレーツ九番安部選手。



パイレーツ唯一の打点を挙げた一番牟田選手。



四回表、2点タイムリー二塁打のサンデーズ四番野々下選手。



続いて技ありライト前タイムリーを放つ五番大沼選手。



攻撃の手を緩めることなく送りバントを決める野田選手。



五回表、代打の鳥羽選手は安打&好走塁でアピール。



バントの打球が足に当たりバッターアウトの宣告！



しっかりボールが見えているこの日3安打の四番野々下選手。



五回表、右越え2ランを放ち二塁を回る野々下選手。



さあ、次は守備でもアピールと意気込む鳥羽選手。



最終五回裏マウンドに立ったサンデー江口投手。



江口投手にマウンドを託した塚本一塁手。



バントに素早く反応してアウトにした荒口捕手。

## 青松園A まだまだ若い者には負けません！

ブルーマーリンズ（1勝8敗0分）00130 4 網脇●-尾田  
三友クラブ （3勝5敗1分）60600 12 足達○-駄原

2BH：糸井、尾田（ブルー）森野、福井（三友ク）

一回表ブルーマーリンズは、四球で出たランナーをセカンドまで進めるもクリーンナップが三友クラブ足達投手に抑えられ得点できず。その裏三友クラブは、網脇投手の不安定な立ち上がりを攻め、打者一巡の猛攻を見せ大量点を奪う。二回まで足達投手の前に沈黙していた打線を三回表、Bマーリンズ浜崎選手のレフト前ヒットを足掛かりに1点を返す。しかしその裏、網脇投手が流れを渡すまいと力んだのかコントロールが乱れ、この日も打者一巡と責めたてられ初回に続き大量点を奪われる。四回表Bマーリンズは、このまま簡単にやられまいと糸井選手がツーベースを放ちチームを勢いづける。すると浜崎選手の本日2本目のヒットを含む5安打を浴びせ3点を返す。その後は、両投手の持ち味を見せ、相手にチャンスを与えず試合終了の運びとなる。三友クラブ福山選手、Bマーリンズ浜崎選手の素晴らしいバッティングを見ることができ、若者にまだまだ負けてないことを実感させられた試合だった。（記事、写真：奈多クラブ 吉田貴史）



完投勝利の三友クラブ足達投手。



ブルーマーリンズ網脇投手。



一回裏、三友クラブ四番森野選手の先制タイムリー。



三友クラブ山本選手のスチール。



若い者には負けません、三回表チーム初安打のBマーリンズ浜崎選手。



### 青松園B 藤田投手の奪三振SHOW!!

塩浜ジャガーズ（2勝4敗3分） 1 0 0 0 0 0 0 1 道喜●—堀内

新町ウインズ （5勝4敗0分） 2 1 0 0 0 1 × 4 藤田○—今林

HR：荒木（塩浜ジ） 3BH：泉（新町ウ） 2BH：城戸（新町ウ）

塩浜ジャガーズは初回、三番荒木選手のソロ本塁打により先制する。しかしその裏、ウインズは二番泉選手の適時三塁打、三番今林選手の犠牲フライですぐさま逆転をする。ジャガーズ先発の道喜投手は二回にも1点を失うが三回、四回、五回と毎回ランナーは出すものの無失点に抑える好投を見せる。途中まではどちらに転がってもおかしくない試合展開ではあったが、ウインズ藤田投手の投球は回を追うごとに勢いを増していき、二回以降は得点を許さず被安打3、奪三振12個とジャガーズに流れを寄せつけない圧巻のピッチングでウインズが勝利を手にした。（記事：雁の巣ライナース 明瀬旭、写真：有馬雄一）



12奪三振の快投を見せたウインズ藤田投手。



打線の援護が欲しかったジャガーズ道喜投手。



一回表、先制のソロ本塁打を放ったジャガーズ荒木選手。



一回裏、勝ち越し犠牲フライを放つウインズ今林選手。



藤田投手の剛球にジャガーズ橋村選手のバットは空を切る。

## 雁レクE 毎回得点のホーネッツが確実に勝利を手に！

三苦三球会 (4勝4敗0分) 20120 5 原口●、大津一藤澤、山崎

三苦ホーネッツ (7勝3敗0分) 4242X 12 井手○ー松尾

HR：渡辺 (三球会) 稲葉 (三苦ホ) 3BH：堺和彦 (三球会) 井手、矢野 (三苦ホ)

2BH：小倉 (三球会) 長島 (三苦ホ) 盗塁：稲葉、山崎 (三苦ホ)

一回表三球会は、大津選手の送りバントで二死二塁から四番堺太一選手と五番小倉選手の連続タイムリーで幸先よく2点をダッシュ。しかし、一回裏のホーネッツも連続四球と稲葉選手のセフティーで満塁にすると四・五番が連続犠牲フライで即座に同点にして、後続の井手選手が右中間へのタイムリー三塁打を放つと本日打撃に守備に大活躍となる長島選手のタイムリー二塁打で一挙に逆転に成功！二回裏のホーネッツは先頭打者の池間選手がライト前ヒットで出塁すると、四球と四番三浦選手のレフト前ヒットで満塁とチャンスを広げ、相手ミスを逃がさず四球やWPで2点を追加。三回表の三球会は1番からの攻撃で何とか反撃の狼煙(のろし)を上げたいところで、二番渡辺選手が右中間を抜けるソロホームランを叩き出した。しかし後続が倒れ、この回の得点はこの1得点のみ。逆に三回裏のホーネッツは簡単に二者が凡退するものの、九番池間選手のセンター前ヒットを皮切りに稲葉選手のツーランを含む四者連続安打で4得点をものにした。四回表には三球会も意地を見せ2得点を奪うが、追いかける様にホーネッツもその裏2点を返し決着。両チームともスピードある緊張感のある好ゲームを見せてくれたが、今日は二桁安打に効率よく得点を重ねたホーネッツが勝利をものにした。

(記事：三苦フレンズ 肥喜里一征)



ホーネッツ先発の井手投手。



一回表、三球会二番大津選手の絶妙な送りバント。



一回表、四番塚太一選手のセンター前先制タイムリー。



右中間に抜けるボールをダイビングで防ぐ山崎中堅手。



三球会先発の原口投手。



一回裏、井手選手のタイムリースリーベース。



一回裏、長島選手のタイムリーツベースヒット。



レフトからの好返球で長島選手をタッチアウト！





三回表、ソロホームランを放つ三球会二番渡辺選手。



三回表、セカンド強襲ライナーを見事にさばきナインに迎えられる長島選手。



三回裏、内野安打後、すかさずスチール山崎選手。



三回裏、2ランを放ちナインに迎えられる稲葉選手。

## 第17週編集後記

第17週、9月15日は雨が心配される中、4試合が行われました。

奈多グラウンドの奈多サンデーズ対新町パイレーツ戦は、昨年2戦2敗のサンデーズ打線が最多勝投手のパイレーツ吉田投手をどう打ち崩すがが注目でしたが、蓋を開けてみれば、毎回得点の11点を挙げ、投げては塚本・江口の投手リレーでパイレーツ打線を1点に抑えて、11-1でサンデーズ勝利。この試合は我々レッドサンデーズが審判だったので気づいた点をいくつか。去年の主力選手を欠くパイレーツに打撃の重量感を感じられませんでした。あと、インニング前のボール回しでサンデーズが足まで使って回していたのに対し、パイレーツは足が止まっていて、その時点でサンデーズの勢いを感じていました。それはサンデーズが試合前のミーティングから「優勝」に対する発言が出ていたことに起因すると思います。即ち、パイレーツも昨年のように優勝が視界に入っている中でのサンデーズ戦だったら、少し違っていたかも。奈多サンデーズが伝統的に優勝争いに絡んでいるのは、選手個々の能力もありますが、シーズン前から一年を通じて常に「優勝」という言葉を口に出し、念頭に置いて試合を進めているからでしょう。田中監督をはじめ、富安・富田・前田氏ら大ベテランの方々からも厳しい目で見られ、叱咤（激励？）されているのもいい緊張感になっているようです。

青松園Aのブルーマーリンズ対三友クラブ戦は、共に7安打ずつ放ったが、四死球の差が点差に反映し、1死球のみに抑えた足立投手の活躍で12-4と三友クラブの勝利。Bマーリンズは勝利のために制球力と20代の活躍は必須ですね。

青松園Bの塩浜ジャガーズ対新町ウインズ戦は、初回ジャガーズの荒木選手に一発を喰らい先制を許すもの

の、全21アウト中半分以上の12アウトを三振で奪ったウインズ藤田投手の剛腕が唸り、1-4でウインズの勝利。打っても共に3安打の二番泉、四番城戸選手の活躍も光りました。ジャガーズは道喜投手がよく投げてはいましたが、主軸で投手も務める立石・内田両選手の不在が響きました。

雁レクEの三苦三球会对三苦ホーネッツ戦は、初回の失点をすぐに取り返し、12安打で逆転したホーネッツが毎回得点の12-5で三球会を破りました。ホーネッツはムードメーカーのミスターこと永島選手の活躍が光った一方、三球会はエースの吉留投手不在が響きましたね。9人ぎりぎりの試合を余儀なくされるチームがある中で、三球会12人、ホーネッツ13人出場と目まぐるしい選手の入替えの試合でした。